様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 １５ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｈ０１３０９

研究課題名（和文）巨大塩田地主野﨑家史料の総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Study of the Historical Records of the Nozaki Family,Giant Salt Field Landowners

研究代表者
飯塚　一幸（IIZUKA, kazuyuki）

大阪大学・大学院人文学研究科（人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：５０２５９８９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,700,000円

研究成果の概要（和文）：倉敷市児島の野﨑家は日本を代表する塩田地主である。本研究は、野﨑家塩業歴史館に所蔵されている文書史料を対象として、①その目録化を図る、②目録化した史料を基に学際的研究を行う、③その学際的研究の成果を論文集として刊行する、ことを目的とした。
本研究の成果は以下の通りである。（１）文書史料について、2万616点を目録化し、その内4864点を撮影した。（２）「野﨑家史料研究会」を立ち上げ、岡山・瀬戸内地域の有力者から出発した野﨑家が、どのように日本の近代化を担い帝国化に対応したのか明らかにした。（３）研究代表者・研究分担者、研究会に参加した若手研究者により、論文集を刊行することで出版社と合意した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
倉敷市児島の野﨑家は日本を代表する塩田地主である。本研究は、野﨑家塩業歴史館が所蔵する文書史料を対象として、19世紀に入り塩田地主としての姿を現す野﨑家が、①武左衛門・武吉郎の下で塩田地主として急速に経営を拡大し、②近世においては岡山藩政、明治維新後は岡山県政と結びつきつつ地方行政・地方政治に影響力を行使し、③帝国議会開設に際し貴族院多額納税者議員として国政に与るようになり、④対外硬派に加わり近衛篤麿の政治的・資金的な後ろ盾となり、⑤日清戦争後には児玉源太郎台湾総督・後藤新平民政長官と協調しつつ台湾野﨑塩行を創立するなど、日本の近代化を担い帝国化にも積極的に対応していく経緯を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The Nozaki family of Kojima,Kurashiki City,is one of Japan's leading salt farm landowners.The objectives of this research are to (1)catalog the archives hold by the Nozaki Family Museum of Salt Industry,(2)conduct interdiciplinary research based on these archives,and(3) publish the results in a collectuon of papers.
The results of this study are as follows.(1)The Nozaki family archives were cataloged for 20,616 items,of which 4864 photographed.(2)The Nozaki Family Archives Study Group was established to clarify how the Nozaki family,which began as influential figures in the Okayama and Setouchi regions,played a role in Japan's modernization and responded to imperialism.(3)The Principal Investigator,Research Assistants,and young researchers interested in the archives of the Nozaki family agreed to publish a collection of papers.

研究分野：日本近代史

キーワード：日本史　塩田地主　岡山藩　貴族院

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）飯塚一幸（研究代表者）は、研究代表者を務めた科学研究費基盤研究（B）「小西家資料の総合的研究」（課題番号 26284096、研究期間 2014～2018 年）に続き、在来産業の担い手を対象とする学際的研究を企図し、巨大塩田地主野﨑家に着目した。野﨑家史料は、従来一部の研究者にのみ利用が許されていたが、2000 年代以降やや公開が進み、台湾における野﨑家の塩田開発を分析した太田健一『台湾野﨑塩行の研究』（ナイカイ塩業株式会社、2010 年）や、遊佐徹・土屋洋による「岡山の塩業家野﨑家が形成した近代アジアネットワーク」（『文化共生学研究』15～17、2016～2018 年）など、野﨑家史料を用いた新たな成果が公表されつつあったからである。

（２）一方で、野﨑家塩業歴史館も、野﨑家史料の豊かさを改めて認識する中で、史料の全面的な整理と目録化を構想し始めていた。そこで、2017 年 11 月、同館を運営する財団法人竜王会館の理事定兼学と飯塚一幸、中川未来（研究分担者）・久野洋（研究分担者）が協議し、野﨑家の全貌を明らかにするには多分野の研究者を揃えた組織が必要と考え、野﨑家塩業歴史館の同意と全面的協力を得て本研究課題を申請することとした。その後、本研究組織への参加予定者は、2018 年 9 月に同館で予備調査を実施し、共同研究のあり方と史料の公開方法について協議を行った。協議には現野﨑家当主野﨑泰彦氏（ナイカイ塩業株式会社社長）も同席し、同館と緊密な連携をとっていくことが確認された。

（３）野﨑家（現ナイカイ塩業株式会社）の塩田開発は、1827 年に岡山藩より許されて以降、第 2 代武左衛門（1789～1864）と第 3 代武吉郎（1848～1925）により進展した。野﨑家は、瀬戸内塩業界最大の実力者として「塩田王」と称される一方、新田開発も進め、明治期には 613 町歩余を所有する大地主となる。また、武左衛門は岡山藩の大庄屋格を与えられ藩権力と結びつき、武吉郎も岡山県政で影響力を持った。特に武吉郎は、貴族院多額納税者議員や日本塩業界の重鎮として全国的な政治・経済活動を展開し、東アジアにも活動の幅を広げていった。

　このように近世から近代に多彩な活動を繰り広げた野﨑家には、10 万点に近いと推定される史料群が伝存しており、1950 年代以降に概括的な調査が行われ、1964 年に『野﨑家文書仮目録』が刊行された。その後も地元研究者を中心とした調査が断続的に行われ、その成果は、ナイカイ塩業株式会社社史編纂委員会編『備前児島野﨑家の研究－ナイカイ塩業株式会社成立史－』（山陽新聞社、1981 年）にまとめられた。同書では、塩業史と地主制史の観点から、近世後期から昭和戦前期までの野﨑家の経営について分析が加えられている。

　とはいえ、野﨑家史料は近年まで未公開であり、史料の細部を知るための体系的な目録は存在しない。『備前児島野﨑家の研究』に代表される先行研究も、当時の学界状況に制約されて地主経営に分析の力点が置かれ、使用史料は主として経営帳簿類にとどまっている。

２．研究の目的

（１）岡山県倉敷市児島の野﨑家は、近世から近代の日本を代表する巨大塩田地主である。同家は、近世後期以降、全国の塩の 8 割以上を生産する瀬戸内塩業者の中心的存在であり、多様な政治・経済・社会活動を展開した。その活動は、岡山から瀬戸内、日本から東アジアにまで及ぶ。本研究は、全面的な利用が可能となった野﨑家塩業歴史館所蔵の野﨑家史料を対象にして、以下の目的のもとに実施した。

　第１に、野﨑家塩業歴史館に所蔵されている野﨑家史料を整理し、『野﨑家文書目録』として CD-R で研究分担者・関係機関に配布し全容を公開する。

　第２に、野﨑家史料の整理に基づき学際的な共同研究を実施する。野﨑家は、①岡山藩・岡山県という地域社会、②瀬戸内塩業界、③塩業の業界団体と貴族院・対外硬運動を中心とする中央政財界、④塩業経営、対外硬運動及び文化交流で結びついた東アジア世界という、四層の活動領域・人的ネットワークを有する。野﨑家は、岡山・瀬戸内地域の塩業経営者であることを基礎に、日本の近代化に主体的に関わり帝国化に対応していくのである。このことを踏まえ、以下に記したような研究目的・研究課題を設定した。

　第３に、研究代表者、研究分担者、研究協力者により野﨑家史料研究会を組織し、『巨大塩田地主野﨑家の総合的研究（仮）』を刊行する。その際、若手研究者や大学院生にも研究会への参加を募り、条件が整えば執筆に加わってもらうことで、若手研究者の育成も行う。

（２）野﨑家史料の学際的研究における研究テーマには様々な可能性があり得るが、さしあたり以下のような点を解明すべき課題として挙げておく。

①近世・近代塩業の展開に関する包括的分析

　日本における塩の主要生産地は、近世以降瀬戸内海沿岸地域に集中していく。野﨑家はまさにその中心に位置し、近世後期に瀬戸内海沿岸の塩業者が結成した十州同盟や、明治以降に組織された大日本塩業同盟会・大日本塩業協会において一貫して指導的役割を果たした。そのため野﨑家を通して、近世の休浜同盟が大日本塩業協会などの近代の塩業組織へどう展開し、専売制をいかに導いていったのか、具体的に把握できるだろう。また、近世から近代の野﨑家塩業の展開過程を、瀬戸内海の塩田業者との技術交流や全国的な塩業界の動向との関わりから捉え直すことで、瀬戸内塩業史研究が大きく前進することは確実である。

②近世後期から幕末維新期の地域社会史
　野﨑家史料によって、巨大塩田地主が地域社会で果たした多様な機能を分析できる。塩田開発・新田開発と藩財政・大名金融との関連や、地域への資金貸付・救済機能の実態を解明することは、近世地域社会研究への大きな貢献となる。また、①の分析と相互に関連させつつ、幕末以降の塩業の展開と地域経済の変容の関係を明らかにすることで、在来産業と近代化の問題についても豊かな知見が得られるだろう。
　地域の近代化については、文化史・思想史の観点からの究明も必須である。近世後期以降野﨑家には多くの文人墨客が訪れ、なかでも閑谷学校を再興した山田方谷や、その弟子で二松学舎を創設した三島中洲とのつながりは深かった。野﨑家にはこうした著名な漢学者に関する史料が多数残されており（岡山県立美術館学芸課『塩田王野﨑家－個性集う地方サロン－』公益財団法人竜王会館、2013 年）、近世後期から幕末維新期の野﨑家を取り巻く文化的・思想的ネットワークと、漢学者が地域の近代化に果たした役割を明らかにする。
③近代岡山の政治社会史
　野﨑武吉郎は初期岡山県政への多大な貢献から県当局と緊密な関係を築いた。また、武吉郎の弟定次郎やブレーン田邊為三郎は代議士であり、岡山県を代表する政党政治家犬養毅とも提携関係にあった。そのため野﨑家史料には、知事をはじめとする地方官や、代議士・県会議員クラスの政治家の書簡類が大量に含まれており、その分析から岡山県政治史研究を刷新することが可能となるだろう。
④貴族院多額納税者議員研究、対外硬派研究
　貴族院研究は日本政治史研究で近年最も進展した領域の一つだが、多額納税者議員に関するまとまった研究はほとんどない。野﨑家史料には、多額納税者議員野﨑武吉郎の活動に関する史料が大量に残されており、研究の飛躍的進展は確実である。また、貴族院議員は明治中後期の中央政治に多大な影響を及ぼした対外硬運動の重要なアクターであり（酒田正敏『近代日本における対外硬運動の研究』東京大学出版会、1978 年）、野﨑をはじめとする瀬戸内塩業者・多額納税者議員は、対外硬派のリーダーで貴族院議長の近衛篤麿に援助を行っていた。野﨑武吉郎の政治活動の解明は、対外硬派の包括的な把握につながる可能性がある。
⑤東アジアにおける野﨑家の政治・経済活動
　野﨑家の政治活動は、経済活動と密接に結びつき東アジアにまで広がっていた。たとえば、野﨑武吉郎は近衛篤麿のパトロンとして日清貿易研究所や東亜同文会に関与し、彼自身も興亜会・亜細亜協会の会員であった。野﨑武吉郎を中心とする瀬戸内塩業者はこうしたアジア主義諸団体と深くつながり、政治的・経済的利益の貫徹を図っていたのである。野﨑家史料には、明治中後期のアジア主義的志向を有する政治家や実業家の史料が豊富に存在する。これらの史料により、野﨑家の政治と経済を結びつける実業構想や対外観を検討し、瀬戸内地域を基盤とするアジア主義運動の特質を解明する。
　さらに野﨑家は、台湾での事業展開や中国への近代的塩業技術の移転などを推進していた。この過程で形成された野﨑家の大陸人脈を検討し、同家の中国や台湾への経済進出を東アジア近代史に位置づける作業を行う。

３．研究の方法
（１）大阪大学大学院文学研究科（現人文学研究科）日本史研究室、岡山大学社会文化科学研究科日本史研究室、ノートルダム清心女子大学の学部学生・院生に協力してもらい、研究代表者・研究分担者・研究協力者とともに野﨑家塩業歴史館が所蔵する野﨑家史料の目録化を進めた。また、目録化を終えた史料の中で本研究に必要と認めた分について撮影を行った。その上で、それらのデータを収めた HDD・USB を研究代表者・研究分担者・研究協力者・野﨑家塩業歴史館に配布した。
（２）研究代表者・研究分担者は、各自の専門に従い研究課題にそって、各地の図書館・博物館・資料館などで、関係資料・文献の収集を行った。
（３）野﨑家塩業歴史館が所蔵する野﨑家史料から得られた新たな知見や史料情報を共有し、研究課題の進捗状況を確認し、本研究の成果を挙げるために「野﨑家史料研究会」を立ち上げ、年一回のペースで研究会を開催した。この研究会には毎回野﨑家塩業歴史館の関係者も参加した。
（４）本研究の目的を達成するために、研究代表者が所属する大阪大学大学院文学研究科の大学院生１名を特任研究員として雇用した。

４．研究成果
　本研究の成果は以下の通りである。
（１）野﨑家塩業歴史館が所蔵する野﨑家史料のうち、2 万 616 点を目録化し、4864 点の撮影を終え、そのデータを HDD・USB に収めて、研究代表者・研究分担者・研究協力者・野﨑家塩業歴史館に配布した。
（２）「野﨑家史料研究会」を立ち上げ、毎年末に研究会を開催した
（３）研究期間中に研究会の参加者は、野﨑家史料を活用して次のような論文などを発表した。
①中川未来「明治期の食塩輸出論と中国・朝鮮認識」（『愛媛大学法文学部論集人文学編』48 号、2020 年 2 月）
②久野洋「明治期の水害史料と地域社会・地方行政」（『資料学の方法をさぐる』20 号、2021 年

3 月）
③落合功「博覧会に参加する」（国立歴史民俗博物館編『学びの歴史像』、2021 年 10 月）
④中川未来「田舎青年と支那保全論：日清戦後における中国関与とその主体形成」（『愛媛大学法文学部論集人文学編』53 号、2022 年 9 月）
⑤落合功「近代殖産興業の展開と博覧会参加」（『国立歴史民俗博物館研究報告』236 集、2022 年 10 月）
⑥落合功「近世における備前児島の製塩業－児島郡味野村から見た一断面－」（『青山経済論集』74-3、2022 年 12 月）
⑦中川未来「稲葉岩吉の中国経験　一九〇〇～一九〇一：日清戦後における中国関与とその主体形成（二）」（『愛媛大学法文学部論集人文学編』54 号、2023 年 2 月）
⑧久野洋「明治期の水害対応に関する基礎的考察－明治 25 年水害を通して－」（『岡山県立記録資料館紀要』18 号、2023 年 3 月）
⑨落合功「近世後期、備前国児島郡味野村の船所持と武左衛門」（『倉敷の歴史』33、2023 年 3 月）
⑩飯塚一幸「史料散歩「野﨑家に伝存する 1893 年の水害史料」」（『日本歴史』910 号、2024 年 3 月）

これらの論文等により、近世後期における野﨑家製塩業の実態、明治政府による殖産興業政策と野﨑家の関係、野﨑家製塩業と明治期の食塩輸出論との関わり、野﨑家と対外硬派の青年論客との交流、1892 年・1893 年水害時の貴族院多額納税者議員野﨑武吉郎による被害状況調査・災害土木費国庫補助獲得運動の実態が明らかにされた。

（４）本研究の成果を社会に還元するために、2021 年 4 月 22 日に公益財団法人山陽放送学術文化・スポーツ振興財団が主催するシンポジウム「近代岡山の偉人伝　殖産に挑んだ人々」の第 5 回として「内海に白き輝きを見た男」を開催した。このシンポジウムでは、東野将伸が「野﨑武左衛門の経済・政治活動－地域社会と岡山藩への貢献－」、飯塚一幸が「塩業界の巨人　野﨑武吉郎」と題する報告を行い、両報告とも後に同財団編『近代岡山殖産に挑んだ人々２』（吉備人出版、2022 年）に収録された。また、同年 11 月 6 日に飯塚一幸が、児島市民交流センター開館 10 周年記念講演会で、「塩業界の巨人野﨑武吉郎の人脈と活動」と題する講演を行った。

（５）本研究の研究代表者・研究分担者・研究協力者、研究会に参加した若手研究者により、論文集『巨大塩田地主野﨑家の総合的研究（仮）』を刊行することで、京都大学学術出版会と合意している。刊行時期は 2025 年末を予定している。

（６）本研究課題を終了した後も、野﨑家塩業歴史館の協力の下に、岡山大学を拠点として本研究の第１の課題である野﨑家史料の目録化を継続することで合意している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計27件（うち査読付論文　12件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 飯塚一幸	４．巻 888
２．論文標題 書評三村昌司著『日本近代社会形成史　議場・政党・名望家』	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本歴史	６．最初と最後の頁 101-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 落合功	４．巻 31
２．論文標題 明治十年代後期における塩業界	５．発行年 2023年
３．雑誌名 山口県史研究	６．最初と最後の頁 29-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 落合功	４．巻 74-3
２．論文標題 近世における備前児島の製塩業－児島郡味野村から見た一断面－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 青山経済論集	６．最初と最後の頁 107-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 落合功	４．巻 236
２．論文標題 近代殖産興業の展開と博覧会参加－博覧会・塩業界・経営主体－	５．発行年 2022年
３．雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	６．最初と最後の頁 87-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野 将伸、渡世 理彩	4．巻 54
2．論文標題 備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介－経済・流通・キリスト教（二）－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6．最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/64303	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久野洋	4．巻 18
2．論文標題 明治期の水害対応に関する基礎的考察	5．発行年 2023年
3．雑誌名 岡山県立記録資料館紀要	6．最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中川未来	4．巻 53
2．論文標題 田舎青年と支那保全論：日清戦後における中国関与とその主体形成	5．発行年 2022年
3．雑誌名 愛媛大学法文学部論集人文学編	6．最初と最後の頁 27-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 中川未来	4．巻 54
2．論文標題 稲葉岩吉の中国経験－一九〇〇～一九〇一：日清戦後における中国関与とその主体形成（二）	5．発行年 2023年
3．雑誌名 愛媛大学法文学部論集人文学編	6．最初と最後の頁 19-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯塚一幸	4．巻 707
2．論文標題 書評前田亮介著『全国政治の始動－帝国議会開設後の明治国家－』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 68-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯塚一幸	4．巻 238
2．論文標題 書評へのリプライ	5．発行年 2021年
3．雑誌名 歴史科学	6．最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 落合功	4．巻 73-3
2．論文標題 水産諮問会の開催と塩業界	5．発行年 2021年
3．雑誌名 青山経済論集	6．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 落合功	4．巻 30
2．論文標題 明治拾年代の十州塩田同盟と防長塩田	5．発行年 2022年
3．雑誌名 山口県史研究	6．最初と最後の頁 23-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 落合功	4．巻 32
2．論文標題 倉敷大橋銀行の設立と農業倉庫	5．発行年 2022年
3．雑誌名 倉敷の歴史	6．最初と最後の頁 36-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野将伸	4．巻 155
2．論文標題 書評今村直樹『近世の地域行財政と明治維新』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 岡山地方史研究	6．最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野将伸	4．巻 53
2．論文標題 備中国小田郡笠岡村浅野家文書目録・史料紹介－経済・流通・キリスト教（一）	5．発行年 2022年
3．雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/63397	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野将伸	4．巻 885
2．論文標題 近世後期から明治期における質屋業と高額貸付－備中国後月郡を事例に－	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 19-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 伊藤昭弘	4．巻 709
2．論文標題 書評今村直樹著『近世の地域行財政と明治維新』	5．発行年 2021年
3．雑誌名 日本史研究	6．最初と最後の頁 76-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 落合功	4．巻 36
2．論文標題 明治中期における浜子の雇用形態	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本塩業の研究	6．最初と最後の頁 31-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 落合功	4．巻 29
2．論文標題 近代揺籃期における塩業界	5．発行年 2021年
3．雑誌名 山口県史研究	6．最初と最後の頁 61-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 久野洋	4．巻 20
2．論文標題 明治期の水害史料と地域社会・地方行政	5．発行年 2021年
3．雑誌名 資料学の方法を探る	6．最初と最後の頁 9-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中川未来	4．巻 48
2．論文標題 明治中期の海外市場情報と中国・朝鮮認識：「粗製」認識とその作用	5．発行年 2020年
3．雑誌名 メディア史研究	6．最初と最後の頁 23-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 飯塚一幸	4．巻 988
2．論文標題 書評中西啓太『町村「自治」と明治国家－地方行財政の歴史的意義』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 59-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 落合功	4．巻 305
2．論文標題 近世後期における塩業経営者のネットワーク	5．発行年 2020年
3．雑誌名 史学研究	6．最初と最後の頁 129-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中川未来	4．巻 24
2．論文標題 日清戦前の朝鮮経験と対外観形成－在朝日本人・地域社会・居留地メディア－	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア民衆史研究	6．最初と最後の頁 91-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中川未来	4．巻 48
2．論文標題 明治期の食塩輸出論と中国・朝鮮認識－構築される対外観とその作用機序－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 愛媛大学法文学部論集人文学編	6．最初と最後の頁 55-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野将伸他	4．巻 49
2．論文標題 岡山県御津郡金川村武藤家文書目録・史料紹介	5．発行年 2020年
3．雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学科紀要	6．最初と最後の頁 37-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 東野将伸	4．巻 854
2．論文標題 書評井奥成彦・谷本雅之編『豪農たちの近世・近代　19世紀南山城の社会と経済』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本歴史	6．最初と最後の頁 96-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 落合功
2．発表標題 『製塩』と『燃料』と『公害』
3．学会等名 環境問題の社会史的研究（京都大学人文科学研究所）
4．発表年 2022年

１．発表者名 落合功
２．発表標題 明治前期における塩業界
３．学会等名 日本経済思想史学会西日本部会
４．発表年 2022年

１．発表者名 東野将伸
２．発表標題 史料紹介：備中国小田郡笠岡村浅野家文書の経営・流通関係史料
３．学会等名 岡山地方史研究会7月例会
４．発表年 2022年

１．発表者名 中川未来
２．発表標題 「地方」から再構築される日本近現代史：書評・久野洋著『近代日本政治と犬養毅』
３．学会等名 岡山地方史研究会12月例会
４．発表年 2022年

１．発表者名 東野将伸
２．発表標題 書評今村直樹『近世の地域行財政と明治維新』
３．学会等名 岡山地方史研究会4月例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中川未来
２．発表標題 東学農民戦争はいかに報道されたか：地域社会における朝鮮観の形成と展開
３．学会等名 文化センター・アリラン2021年度連続講座第5回
４．発表年 2021年

１．発表者名 久野洋
２．発表標題 地域資料からみる明治期の水害
３．学会等名 愛媛大学「資料学」研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 東野将伸
２．発表標題 近世日本における地域・都市間の関係をめぐって―経済・金融の観点から―
３．学会等名 「災害文化と地域社会形成史」研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 飯塚一幸
２．発表標題 今村直樹・中西啓太報告へのコメント
３．学会等名 近現代史研究会第11回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 久野洋
２．発表標題 犬養毅の対外論と大陸人脈
３．学会等名 第87回内務省研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 久野洋
２．発表標題 犬養毅の対外論
３．学会等名 第四回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 東野将伸
２．発表標題 近世・近代期における豪農の広域金融－播磨国・備前国における動向を事例に－
３．学会等名 岡山地方史研究会12月例会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計15件

１．著者名 山口輝臣、福家崇洋、坂本一登、佐々木隆、飯塚一幸、梶田明宏、小林和幸、中川未来、長尾宗典、郭馳洋、木村悠之介、千葉功、差波亜紀子、月脚達彦、永島広紀、ディック・ステゲウェルンス、伊東かおり	４．発行年 2023年
２．出版社 筑摩書房	５．総ページ数 339
３．書名 思想史講義【明治篇Ⅱ】	

１．著者名 鈴木茂之、松多信尚、福田宏、奥島雄一、山口雄治、清家章、今津勝紀、高野宏、東野将伸、万城あき、松岡弘之、藤井大児、津守貴之、川田力、中谷文美、斎藤圭介	４．発行年 2023年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 360
３．書名 大学的岡山ガイド	

１．著者名 久野　洋	４．発行年 2022年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 334
３．書名 近代日本政治と犬養毅	

１．著者名 岩城　卓二、上島　享、河西　秀哉、塩出　浩之、谷川　穣、告井　幸男	４．発行年 2022年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 388
３．書名 論点・日本史学	

１．著者名 町泉寿郎	４．発行年 2022年
２．出版社 二松学舎大学附属図書館	５．総ページ数 63
３．書名 三島中洲と近代其８	

１．著者名 飯塚一幸、高槻泰郎、東野将伸、加藤明恵、宮川真弥、濱田恭幸、久野洋	４．発行年 2021年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 284
３．書名 近代移行期の酒造業と地域社会	

１．著者名 玉川寛治、山本太郎、小西伸彦、野﨑泰彦、飯塚一幸、東野将伸、端田晶、下山純正	４．発行年 2022年
２．出版社 吉備人出版	５．総ページ数 258
３．書名 近代岡山　殖産に挑んだ人々２	

１．著者名 楊際開、伊東貴之、中川未来、小路田泰直、桐原健真、濱野靖一郎、一坂太郎、田頭慎一郎、鈴木洋仁、高柳信夫、山村奨	４．発行年 2021年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 464
３．書名 「明治日本と革命中国」の思想史	

１．著者名 吾妻重二、町泉寿郎、山寺美紀子、長谷部剛、太田剛、井上孝榮、横山俊一郎、陶徳民、増田周子	４．発行年 2021年
２．出版社 関西大学東西学術研究所	５．総ページ数 269
３．書名 「南岳百年祭」記念論文集	

１．著者名 阿部 猛、落合 功、谷本 雅之、浅井良夫	４．発行年 2020年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 484
３．書名 郷土史大系　生産・流通（上）	

１．著者名 阿部 猛、落合 功、谷本 雅之、浅井良夫	４．発行年 2020年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 432
３．書名 郷土史大系　生産・流通（下）	

１．著者名 飯塚一幸他	４．発行年 2019年
２．出版社 吉川弘文館	５．総ページ数 315
３．書名 近代日本の政治と地域	

１．著者名 久野洋・久保田裕次他	４．発行年 2020年
２．出版社 大阪大学出版会	５．総ページ数 432
３．書名 近現代東アジアの地域秩序と日本	

１．著者名 町泉寿郎他	４．発行年 2019年
２．出版社 戎光祥出版	５．総ページ数 255
３．書名 漢学という視座	

１．著者名 町泉寿郎他	４．発行年 2020年
２．出版社 戎光祥出版	５．総ページ数 291
３．書名 漢学と漢学塾	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	落合　功 (OCHIAI Kou) (10309619)	青山学院大学・経済学部・教授 (32601)	
研究分担者	久野　洋 (HISANO Yo) (10795181)	ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授 (35305)	
研究分担者	東野　将伸 (HIGASHINO Masanobu) (10812349)	岡山大学・社会文化科学学域・講師 (15301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	伊藤　昭弘 (ITO Akihiro) (20423494)	佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・教授 (17201)	
研究分担者	町　泉寿郎 (MACHI Senjuro) (40301733)	二松學舍大學・文学部・教授 (32664)	
研究分担者	中川　未来 (NAKAGAWA Mirai) (60757631)	愛媛大学・法文学部・准教授 (16301)	
研究分担者	久保田　裕次 (KUBOTA Yuji) (70747477)	国士舘大学・文学部・准教授 (32616)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関